

歯科衛生士口演

(D会場)

D 会 場

HO-01～02

6月2日（土） D会場 9：00～9：20

HO-01

歯周病重症度と口腔関連QOLとの関連性

2599

横谷 亜希子

キーワード：歯周病，口腔関連QOL

【目的】従来，歯周疾患重症度の診断や治療のアウトカムは，プロービングデプスなどの生物医学的データにより客観評価されてきた。しかし近年，医療において生活の質に焦点を当てた臨床・研究の重要性が高まりつつある。そのため，本研究では歯周病の重症度と患者の口腔関連QOLとの関連性を明確にすることを目的とした。

【方法】2012年4月から2017年7月までの当院初診患者のうち，30歳～64歳の者154名を対象とし，カルテおよびサブカルテから基本情報を抽出した。歯周病の重症度は，初診時の歯周基本検査の結果からCPIコード値を算出し，コード0：P1，コード1と2：P2，コード3：P3，コード4：P4の4群に分類した。初診時に調査した口腔関連QOL（OHIP-14）の合計値および7つのサブドメイン値を算出し，4群間比較した。なお，本研究は徳島大学病院臨床研究倫理審査委員会の承認を受けて実施した（承認番号：2885）。

【結果と考察】OHIP-14の合計値では4群間に有意差は認められなかった。サブドメイン値は，機能的問題についてP2とP4の間，P3とP4の間に有意差が認められ，その他6つの値には有意差は認められなかった。機能的問題とは，「食べ物が噛みづらい」「食べ物がはさまったり，ひっかかる」であり，歯周病が重症化すると口腔の機能も低下することが示唆された。一方，痛みや身体的・心理的・社会的困りごと，ハンディキャップには影響しないことが示唆された。

【結論】歯周病の重症度は患者の口腔関連QOLの，とくに機能的問題に関連がある可能性が示唆された。

HO-02

慢性歯周炎患者にエムドゲインゲルを用いた歯周組織再生療法を行った一症例

2504

佐藤 ゆかり

キーワード：歯周基本治療，垂直性骨吸収，サポータティブペリオドンタルセラピー

【症例の概要】歯周基本治療は歯周炎に感染した歯を病状安定に導くためには必要不可欠であり，また歯周組織再生療法の前処置として重要である。本症例は歯周基本治療を通して患者のモチベーションの向上から歯周組織再生療法を望み，病状安定に導いた過程について報告する。

【初診】患者：50歳女性。初診日：2015年3月10日。主訴：歯周病の治療を希望。

【診査・検査所見】現症：全顎にわたりリセッションがあり，補綴物は不適合，24から排膿が認められた。Probing depthは4mm以上71%，BOP74%，PCR59.8%。X線所見：全顎的に水平性骨欠損，一部垂直性骨欠損が認められた。全身既往歴：特記事項なし。喫煙歴：なし。

【診断】広汎型重度慢性歯周炎

【治療計画】1) 歯周基本治療：口腔衛生指導，スケーリング，ルートプレーニング 2) 再評価 3) 歯周外科処置 4) 補綴処置 5) SPT

【治療経過】2015年3月：口腔衛生指導では患者のモチベーション，現状の把握と理解，治療への参加意欲を損ねないように配慮。その後SRPへ移行しProbing depthは4mm以上29%，BOP38%と減少。9月：再評価後，36，37に歯周組織再生療法を行った。補綴治療を経て3月にSPTへ移行。

【考察・まとめ】患者自身が口腔内の現状を把握することで積極的に歯周外科処置を希望した。その結果36は経過良好で病状安定している。しかし，歯周病は内因性感染が多いためSPTの必要性を理解してもらっている。